宮村のり子教育長が退任

人との出会いと経験に感謝 地域活動をこれからも応援

㊤／園児から大学生までが合同合唱で融合した教育フォーラム　㊥／食育の日に小学校を訪問。児童と会話を弾ませながら一緒に給食　㊦／新成人に祝福の言葉と社会の厳しさを諭した成人式

「人との出会い、多くの貴重な経験をさせていただき、感謝とお礼の気持ちで、今はいっぱいです」

穏やかな表情で4年間の日々に感謝の気持ちを込める、元教育長の宮村のり子さん。

6月25日付けで、教育長の任期が満了し、退任となりました。

宮村さんは昭和47年4月、小学校教諭に着任。多くの子どもたちに教育を通した愛情を注ぎ、教頭や指導主事などを歴任して、平成11年3月に退職。教育現場での豊富な経験と知識、リーダーシップが認められ、平成19年6月、御船町初の女性教育長に就任しました。

教育長に就任後、「教育の町みふね」を推進するため、教育振興基本計画を策定。教育環境づくり、家庭と地域の人づくり、文化・スポーツの環境づくりを目標に、教育の先頭に立って尽力しました。

「町には、歴史、文化や先哲などの宝物があります。これらをふるさと学習で子どもたちに伝え、町が育ち、そしてつないでいく。それが目標でした」と就任当時の思いを語ります。

その思いを胸に抱いて取り組んだ試みが教育フォーラムです。町内の園児から大学生までが合同合唱した夢の企画は、世代を超え、つながり、広がる教育の可能性を感じました。

「教育とは、教え育てる、教えられ育つこと。子どもたちを地域、家庭、学校で教えながら育てていく。それぞれの立場で。子どもたちをみんなで見守って、感謝の気持ちや自尊感情を持てるように育ててほしいと願います。公民館や地域の活動も、町の活性化につながります。これからも応援していきます」

御船を担う子どもたち、明るい町の未来、教育の母はこれからも温かく見守り続けます。

◉プロフィール
みやむら・のりこ。昭和24年生まれ。昭和47年4月に小学校教諭となり、教頭、県教育庁社会教育指導主事を務め、平成11年3月に退職。平成19年6月、御船町教育長就任。特色ある学校づくり、読書活動や食育の推進、幼保小中高大の連携交流など多方面で尽力。平成23年6月、教育長退任。木倉地区在住。62歳

九州大学で博士の学位を取得
御船町恐竜博物館
池上直樹主任学芸員

仕事と両立しながら学位を取得 研究者へのスタートラインに立つ

恐竜博物館の池上直樹主任学芸員が3月に、九州大学で博士（理学）の学位を取得しました。

「博士号取得は研究者としてのスタートライン。研究を仕事とするからには、厳しい環境での訓練が必要だと感じ、社会人枠での大学院入学を決意しました」と振り返ります。

池上主任学芸員は、平成16年に九州大学比較社会文化学府博士後期課程に社会人選抜で入学。仕事と両立させながら研究を進め、7年かけて博士論文を完成させました。

論文のテーマは、「西南日本、九州中軸帯上部白亜系御船層群の脊椎動物群と堆積環境」。御船層群が形成された当時の環境や恐竜たちの姿を明らかにすることを目的とした研究でした。

「学位を取得できたのは、同僚や家族の支え、そして博物館の活動に参加してくれる人たちのおかげです。これからも御船の恐竜化石の収集と研究を続け、御船の地層や化石の意義を広く発信したい。そのためには、多くの人が来てくれる恐竜博物館をつくることも大きな課題。新しい発想で博物館をつくりたい」と、博物館運営と新館の準備で忙しい毎日を送っています。

御船中出身がソフトテニスで全国に
粟戸孝治君・佐藤友亮君
（左＝辺田見、右＝木倉・熊工高3年）

総体３位で悲願の全国舞台へ 青森の舞台で目標はベスト16

御船中学校出身で熊本工業3年の粟戸孝治君と佐藤友亮君が第39回熊本県総合体育大会ソフトテニス競技個人戦で3位に入賞し、インターハイ出場の切符を手にしました。

御船中時代からペアを組む二人は、今大会も順当に勝ち上がり、5回戦で強敵の済々黌に4―2で勝利。準決勝では天草工業に2―4で惜しくも敗れました。

「済々黌は苦手意識があったので勝てたときはうれしかった。緊張していたけど応援のおかげで頑張ることができた」と大会を振り返る二人。

同校の今泉克コーチは、「インターハイとなれば相手のレベルもあがる。しかし、二人はコンビネーションがいい。自分たちのテニスをすれば、いい結果がでると期待している」と自信をのぞかせます。

「目標はベスト16。相手に打たせて、佐藤君を生かすようなプレーを心掛けたい」と意気込みを語る粟戸君。

「派手なプレーはできない。決めるべきところでしっかり決めたい。自分たちのテニスをして楽しんで頑張りたい」と抱負を語る佐藤君。

二人は今、7月27日に青森県で開幕するインターハイに向けて最終調整中です。